

人も建物も快適・長生き100年をめざして

「住み続けるための

住宅・マンション未来 Book」



未来への贈り物

人も建物も快適・長生き 100 年をめざして

「住み続けるための住宅・マンション未来Book」をつくりました！

東日本大震災により、地震・津波の被害に加えて福島第一原発事故という子どもたちの明日を脅かす災害になりました。そのことを深く受け止め、ほんとうの豊かさを考え、学び、実践したいという思いから『未来Bookー未来への贈り物』という冊子をつくりました。

<内容紹介>

2010年に事務所で主催したドイツツアーの「印象記」は、参加していただいた方の協力を得てその年の秋につくることができました。その際に、ツアー1年を目途に「長生き団地と環境都市視察」で得たことを住民の方に知ってもらうための小論文集を作成する予定でしたが、まとめている矢先に、東日本大震災が起き、発行が中断してしまいました。

事務所設立 20 周年にあたり「快適・長生き 100 年 住み続けるためのマンションのスマート化」のテーマに沿った内容の冊子として、お預かりしていたものと新しくお願いしたものをまとめることができました。

日本でのマンションをどのように考えて行くべきか、また広くは住宅や建物を考えて行く必要があるのかなど、ヒントにさせていただけると思っています。

「住み続けられる集合住宅」

千代崎と山下は現在における諸問題への解決、東日本大震災から学ぶ知恵と勇気にも触れて、マンションの進むべき方向を記すことに努力をしました。



「エコ住宅ライフと賢い省エネライフ」

記念講演でお話ししていただいた内容です。

澤恵介氏は奈良市にある 1972 年に建てられた鉄筋コンクリート造の既存住宅を 1999 年に中古住宅として購入して、省エネ・エコ住宅へ改修・再生され、様々な工夫を重ね少ないエネルギー消費で、かつ再生可能エネルギーを大いに利用し生活されています。経験と実践の記録データを基に、普遍的な住宅のエコ化のヒントが詰まっています。「『再生エコハウス』は 2012 年で 40 歳、まさに働き盛りです。」といううれしくなる内容です。

(書店で『わが家をエコ住宅に一環境に配慮した住宅改修と暮らし』(学芸出版社)の著書を見つ、内容に感動し、知人を介して本の舞台になっている住宅にお尋ねしました。)

「マンションの外断熱改修とその効果」

大橋周二氏は北海道で既存マンションの外断熱改修工事のコンサルタントをされています。

新建築家技術者集団発行の『建築とまちづくり誌 2012 年 3 月号』に投稿された原稿を、この冊子にも寄せていただきました。外断熱の工法と効果について、具体的にデータもありしながら、写真も豊富にあります。省エネということと建物を長持ちさせるということから、これから大いに注目し、実践したい技術です。(2012 年 5 月 26 日~27 日に札幌市で行われたマンション学会では、分科会でお話しも聞き、外断熱改修後のマンションとまさに改修中のマンションの見学をさせていただきました。)

「長生き団地—90年を経たドイツの世界遺産集合住宅を見て—」

梶浦恒男氏は、ベルリン市の世界遺産に選ばれた6つの団地を紹介しています。建設された当時の背景と1968年から始まった再生の動きに触れ、建物を長く使う文化を他の建物の例を挙げて説明しています。

最後に日本での再生例として2008年に建築学会賞を受賞した「1926年のRC造の学生寮を集合住宅に再生した『求道学舎』」のプロジェクトも紹介されています。



「インターバウとベルリンハンザ地区」

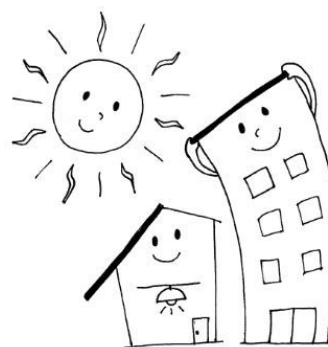
辻寿一氏はベルリン市ハンザ地区の中にあるインターバウ（国際建築展）で、爆撃によって破壊された住宅地を再建したベルリン復興の象徴である住宅群について書かれています。

1952年に西側13カ国53人の建築家による集合住宅を中心とした国際コンペで、35棟1160戸が建設されました。ル・コルビジエのユニテ・アビタシオンだけが巨大であったために別な場所に建設されました。日本の効率を重視した建設計画とは違い、画一的でない豊かなデザインを持つ集合住宅が建設されたと紹介しています。

「フライブルグの新旧のまちづくり」

竹山清明氏はドイツの南部にある環境都市として知られているフライブルグについて書かれています。第2次大戦での全面的に破壊された市街を「考証できる復元的復興」と考証できない地域での「市によるデザインコントロール」されてできた市は、全体的に調和の取れたまちづくりがされているというものです。近隣の原発設置反対の運動から始まって代替えエネルギー政策、中でも特に際だったフランス軍基地跡地を利用した新開発地ヴォーバンでの住民参加・カーフリー・エコロジカル・省エネのまちづくりを紹介しています。

ドイツツアーの印象記で書いていただいた文書で「電柱化・地中配線化」についても掲載させていただきました。



1部800円です。